

# よくあるご質問と回答:

## Arcserve Unified Data Protection 8.x

---

<b>1 全般</b> .....	<b>1</b>
Q1. Arcserve Unified Data Protection (以下 Arcserve UDP と表記)とはどのようなソフトウェアですか？ .....	1
Q2. どのようなユーザが対象ですか？ .....	1
Q3. Arcserve UDP にはどのような機能が提供されていますか？ .....	1
<b>2 ライセンスについて</b> .....	<b>2</b>
Q1. Premium / Premium Plus Edition のライセンス対象である CPU ソケットは対象サーバで現在利用している CPU ソケット数ですか？それとも最大搭載可能 CPU ソケット数ですか？ .....	2
Q2. Premium / Premium Plus Edition は物理（非仮想化）サーバに適用できますか？ .....	2
Q3. Premium Edition に含まれる Arcserve Backup のサポート環境や機能はなんですか？ .....	2
Q4. Premium Edition に含まれる Arcserve Replication のサポート環境や機能はなんですか？ .....	2
Q5. Premium Plus Edition に含まれる Arcserve Replication/High Availability のサポート環境や機能は、なんですか？ .....	2
Q6. バックアップ対象が仮想マシンの場合はどのライセンスを購入すればいいですか？ .....	2
Q7. バックアップ対象の容量でライセンスを購入することはできますか？.....	3
Q8. 特定期間内の使用権で Arcserve UDP を利用することは可能ですか。 .....	3
Q9. 異なるハードウェアにベアメタル復旧するために追加オプションの購入は必要ですか？.....	3
Q10. 仮想マシンのエージェントレス バックアップはできますか？ 追加オプションなどを購入する必要はありますか？ .....	3
Q11. クラウド上の仮想サーバの場合には、どのライセンスを購入すればいいですか？ .....	3
<b>3 動作要件およびサポート構成について</b> .....	<b>4</b>
Q1. どのプラットフォームで動作しますか？ .....	4
Q2. Arcserve UDP でオンライン バックアップができるアプリケーションはなんですか？ .....	4
Q3. Arcserve UDP のオンライン バックアップに対応しないアプリケーションのバックアップはどうすれば良いですか？ .....	4



Q4. Microsoft Hyper-V の管理 OS (ホスト) に Arcserve UDP エージェントをインストールし単独で利用 する 場合、仮想マシンのオンライン バックアップはできますか? .....	4
Q5. Microsoft Active Directory のドメインコントローラをサポートしますか? .....	5
Q6. クラスタ構成をサポートしますか?.....	5
Q7. Hyper-V レプリカ をサポートしますか?.....	5
Q8. 対象のサーバをバックアップする際に、別サーバをバックアップ サーバとして構築する必要はありま すか? .....	5
Q9. Arcserve UDP Linux バックアップサーバは Windows 上の管理コンソールで管理できますか? .....	6
Q10. UDP Agent for Linux のバックアップ先に復旧ポイント サーバを使用できますか? .....	6
Q11. Arcserve UDP v6 からのアップグレードはできますか? また、設定は引き継がれますか? .....	6
Q12. Arcserve UDP のプランを新規の環境に移行できますか? .....	6
Q13. バックアップ プロキシとはなんですか? .....	6
Q14. バックアップできるボリュームサイズに制限はありますか? .....	7
Q15. CIFS 共有のバックアップはできますか? .....	7
Q16. Hyper-V 環境のエージェントレス バックアップにはどんな方法がありますか? .....	7
Q17. VMware バックアップ プロキシ サーバとして、Windows Server 2019 環境をサポートしますか? 7	
Q18. Arcserve UDP で行う通信にセキュアなプロトコルを使えますか? .....	7
Q19. Nutanix のハイパーコンバージドインフラで vSphere 環境を構築している場合、仮想マシンのバック アップをサポートしますか? .....	8
Q20. Nutanix のハイパーコンバージドインフラで Hyper-V 環境を構築している場合、仮想マシンのバック アップをサポートしますか? ? .....	8
Q21. Nutanix のハイパーコンバージドインフラで AHV (Acropolis Hypervisor) 環境を構築している場 合、仮想 マシンのバックアップをサポートしますか? .....	8
Q22. Nutanix Files のバックアップはサポートしますか? .....	8
Q23. Citrix Xen Server を仮想スタンバイ対象の仮想環境としてサポートしていますか? .....	8
Q24. Arcserve UDP に付属する Arcserve Backup ではなにができますか? .....	8
Q25. Arcserve UDP のコンポーネントは仮想サーバやクラウド上の仮想マシンに導入できますか? .....	9
Q26. 仮想スタンバイとは何ですか? .....	9
Q27. インスタント仮想マシン (インスタント VM) とは何ですか? .....	9
Q28. 仮想スタンバイとインスタント仮想マシン (インスタント VM) の違いは何ですか? .....	9
Q29. 仮想スタンバイやインスタント仮想マシン (インスタント VM) をクラウド上に構築できますか? .....	9
Q30. セキュア ブート環境のマシンをバックアップできますか? .....	9
Q31. Arcserve UDP の設定をエクスポートできますか? .....	10



# 1 全般

## Q1. Arcserve Unified Data Protection (以下 Arcserve UDP と表記)とはどのようなソフトウェアですか？

サーバやクライアント PC のデータを動作させたまま OS から丸ごと保護できるイメージ バックアップ製品です。サーバ単体での保護はもちろん、複数サーバの包括的な保護ができます。重複排除バックアップ機能や、仮想環境も物理環境も同時に保護できる集中管理機能を提供しています。

さらに、リストア不要ですぐにバックアップした時点の状態で作成された仮想マシンを起動できる仮想スタンバイ機能、遠隔地へのバックアップデータ転送機能などあらゆるバックアップ / リカバリのニーズに対応できる豊富な機能を標準搭載しているソフトウェアです。IT の専門知識がなくても簡単に使いこなせ、手ごろな価格で迅速にバックアップ運用を開始できることが大きな特長です。

[Top へ戻る](#)

## Q2. どのようなユーザが対象ですか？

特定ユーザや業種に限定される製品ではありません。小規模から大規模環境まで幅広く対応できます。IT の専門知識を持たないユーザや、投資を最小限に抑えつつ簡単かつ必要十分なシステム保護を実現したいユーザ、または大量の仮想サーバや膨大な量のデータのバックアップ管理が必要なユーザや、物理・仮想・クラウドが混在する環境を単一の製品で保護したいユーザにも最適な製品です。

[Top へ戻る](#)

## Q3. Arcserve UDP にはどのような機能が提供されていますか？

Arcserve UDP は個別のマシンバックアップにとどまらず、コンソール画面から保護対象マシンの一元管理機能を提供します。Arcserve UDP には、Advanced / Premium / Premium Plus の 3 つのサーバ OS 用のエディションがあり、バックアップ運用には欠かせない、バックアップデータの重複排除、柔軟なバックアップスケジュール、バックアップデータの遠隔転送、仮想スタンバイ、インスタント VM、テープへのバックアップなどを Advanced Edition の機能として提供しています。

Premium Edition では上記に加え、役割ベースの管理やアシュアードリカバリ、ハードウェアスナップショット、Arcserve Backup の全機能、Arcserve Replication のファイルサーバシナリオをご利用いただけます。

Premium Plus Edition では、更に Arcserve Replication & High Availability の全機能をご利用いただけます。

詳しくは製品概要および製品カタログ、製品紹介 Web サイトをご覧ください。

[Top へ戻る](#)



## 2 ライセンスについて

**Q1. Premium / Premium Plus Edition のライセンス対象である CPU ソケットは対象サーバで現在利用している CPU ソケット数ですか？それとも最大搭載可能 CPU ソケット数ですか？**

現在利用されている CPU ソケット数がライセンス対象になります。

[Top へ戻る](#)

**Q2. Premium / Premium Plus Edition は物理（非仮想化）サーバに適用できますか？**

はい。物理サーバのシステム・データ保護にもご利用いただけます。

[Top へ戻る](#)

**Q3. Premium Edition に含まれる Arcserve Backup のサポート環境や機能はなんですか？**

日本で販売している Arcserve Backup 18.0 と同じ環境、同じオプション / エージェント製品、同じ機能をサポートします。詳細な環境は Arcserve Backup の[動作要件](#)や[注意/制限事項](#)をご覧ください。

[Top へ戻る](#)

**Q4. Premium Edition に含まれる Arcserve Replication のサポート環境や機能はなんですか？**

Premium Edition に含まれる Arcserve Replication の機能は、ファイルサーバシナリオのみ利用できます。データベースやアプリケーションの複製、ファイルサーバを含む Arcserve High Availability のスイッチオーバー機能をご利用になる場合は、Premium Plus Edition をお求めください。

[Top へ戻る](#)

**Q5. Premium Plus Edition に含まれる Arcserve Replication/High Availability のサポート環境や機能は、なんですか？**

日本で販売している Arcserve Replication / High Availability 18.0 と同じ環境、同じ機能をサポートします。詳細な環境は Arcserve Replication / High Availability の[動作要件](#)や[注意/制限事項](#)をご覧ください。

[Top へ戻る](#)

**Q6. バックアップ対象が仮想マシンの場合はどのライセンスを購入すればいいですか？**

仮想環境をバックアップされる場合は、ゲスト OS の数に関係なく、仮想ホストが利用している CPU ソケット数分のソケットライセンスをお求めください。Microsoft Hyper-V 環境の場合には、管理 OS（ホスト OS）も同じライセンスでバックアップできます。

[Top へ戻る](#)



**Q7. バックアップ対象の容量でライセンスを購入することはできますか？**

はい。バックアップ対象の合計容量でライセンスをご購入いただける容量単位のライセンスを提供しています。物理・仮想環境に関わらず、ご利用いただけます。

[Top へ戻る](#)

**Q8. 特定期間内の使用权で Arcserve UDP を利用することは可能ですか。**

はい。1年間と5年間のサブスクリプションライセンスを用意しています。

[Top へ戻る](#)

**Q9. 異なるハードウェアにベアメタル復旧するために追加オプションの購入は必要ですか？**

いいえ、必要ありません。標準機能としてご利用いただけます。

[Top へ戻る](#)

**Q10. 仮想マシンのエージェントレス バックアップはできますか？ 追加オプションなどを購入する必要はありますか？**

追加オプション等を購入することなく、すべてのエディションで VMware vSphere、Microsoft Hyper-V および Nutanix AHV の仮想マシンをエージェントレスでバックアップできます。Arcserve UDP のエージェントレス バックアップでは、ファイル単位のリストアや、アプリケーション (Microsoft Exchange Server、Microsoft SQL Server、Oracle DB、Microsoft SharePoint) のオンライン バックアップもサポートします。

[Top へ戻る](#)

**Q11. クラウド上の仮想サーバの場合には、どのライセンスを購入すればいいですか？**

1台のクラウド仮想サーバあたり1ライセンスをご購入ください。Advanced Edition をご利用の場合は、1クラウド仮想サーバにつき1サーバ単位ライセンス(※)。Premium Edition 以上の場合は、1クラウド仮想サーバにつき、1ソケット単位ライセンス(仮想CPU数や仮想コア数に関係なく)が必要になります。

※なお旧バージョンからソケット単位ライセンスへ無償アップグレードを行った場合、従来通りクラウド上で Advanced Edition のソケット単位ライセンスをご利用いただけます。

[Top へ戻る](#)

ライセンスについては、『[ライセンスに関するよくある質問と回答](#)』も合わせてご参照ください。



## 3 動作要件およびサポート構成について

### Q1. どのプラットフォームで動作しますか？

Arcserve UDP は、物理 / 仮想環境の Windows OS および Linux OS で動作します。主な対応環境は、Windows Server 2019 / 2016 / 2012 R2 / 2012 / 2008 R2 / 2008、および Windows 10 / 8.1 / 8 などの Windows 系 OS と、Red Hat Enterprise Linux、CentOS、SUSE Linux Enterprise Server、Debian、Oracle Linux、Ubuntu (Arcserve UDP v6.5 Update2 以降) などの Linux 系 OS になります。

詳細は[動作要件](#)をご参照ください

[Top へ戻る](#)

### Q2. Arcserve UDP でオンライン バックアップができるアプリケーションはなんですか？

Arcserve UDP は、Microsoft Exchange Server、Microsoft SQL Server、Oracle DB、Microsoft SharePoint の4つのアプリケーションに対応しています。また、Microsoft 365 環境用の追加サブ スクリプションにより Microsoft Exchange Online、SharePoint Online、One Drive、Teams のバックアップにも対応します。仮想環境の場合でも、エージェントレス バックアップの手法で同じアプリケーションをオンラインでバックアップできます。

また、Arcserve UDP 7.0 Update2 より Microsoft 365 先進認証にも対応しました。

各アプリケーションの対応バージョンや必要な対応モジュールは Arcserve UDP の[動作要件](#)をご参照ください。

[Top へ戻る](#)

### Q3. Arcserve UDP のオンライン バックアップに対応しないアプリケーションのバックアップはどうすれば良いですか？

Arcserve UDP はバックアップ時 (バックアップ前 / スナップショット取得前 / スナップショット取得後 / バックアップ後) に任意のスクリプトを指定できます。この機能により、スナップショット取得までの短い時間だけアプリケーションを停止させ、オフライン状態でバックアップを行えます。Arcserve UDP はアプリケーションに依存しない、ファイルとしての保護を行います。

VMware vSphere / Microsoft Hyper-V / Nutanix AHV 環境でエージェントレス バックアップを行う場合でも、バックアップ時にスクリプトを実行できます。バックアップ時に停止が必要となるアプリケーションは、バックアップ前とスナップショット取得後にスクリプトにて停止 / 開始を行ってください。

[Top へ戻る](#)

### Q4. Microsoft Hyper-V の管理 OS (ホスト) に Arcserve UDP エージェントをインストールし単独で利用する場合、仮想マシンのオンライン バックアップはできますか？

はい。Microsoft Hyper-V の仮想マシンのオンライン バックアップおよび管理 OS を含めたシステム全体の復旧ができます。この方法では仮想マシン全体の復元となり、ファイル単位やアプリケーション単位のリストアには対応していません。仮想マシン内のファイルやアプリケーション単位のリストアが必要な場合には、Arcserve UDP 管理コンソールおよびバックアップ プロキシを構築し、エージェントレス バックアップを行ってください。

[Top へ戻る](#)



**Q5. Microsoft Active Directory のドメインコントローラをサポートしますか？**

はい、サポートします。

以下の表にて使用可能な Active Directory の復旧方法をご確認ください。

バックアップ方式 \ 復旧方法	バックアップ対象	権限のない復元 (非 Authoritative リストア)	権限のある復元 (Authoritative リストア)	オブジェクト単位復旧
エージェントベース	物理マシン	○ ※1	○ ※4	○
	仮想マシン	○ ※1, ※3	×	○
エージェントレス	仮想マシン	○ ※2, ※3	×	○ ※5

※1 ベアメタル復旧で復元します。

※2 Windows Server 2012 以降の OS では、「仮想マシンの復旧」をご利用いただけます。

※3 仮想環境で Active Directory の全体復元を行う場合、日本マイクロソフト株式会社の「仮想化セーフガード」の仕様に基づき、「権限のない復元」のみサポートされています。(復元にあたり、複製元となる別のドメインコントローラが必要となります)

※4 Active Directory が物理環境に構築されている場合は、ベアメタル復旧後に OS の ntdsutil コマンドを使用して「権限のある復元」を実行できます。

※5 Active Directory Object Level Restore ユーティリティを使用したリストアになります。

[Top へ戻る](#)

**Q6. クラスタ構成をサポートしますか？**

MSFC / WSFC ファイルサーバと、Microsoft SQL AlwaysOn Availability Group (AAG) および、CSV 上の AlwaysOn Failover Cluster Instance (FCI) の 2 種類のクラスタ環境をサポートします。また Hyper-V ライブ マイグレーション環境に構築される CSV 上の仮想マシンもサポートします。CSV 上の仮想マシンはエージェントレス、もしくは各仮想マシンにエージェントをインストールしてバックアップを行ってください。その他のクラスタ構成をバックアップするには、Arcserve Backup をご利用ください。

[Top へ戻る](#)

**Q7. Hyper-V レプリカ をサポートしますか？**

はい、スタンドアロン構成のゲストとホストのバックアップをサポートします。ゲストはプライマリ仮想マシン（複製元）からバックアップを実行してください。（技術情報 [206058443](#) も合わせて参照してください）

[Top へ戻る](#)

**Q8. 対象のサーバをバックアップする際に、別サーバをバックアップ サーバとして構築する必要がありますか？**

いいえ。Arcserve UDP を対象のサーバに導入し、バックアップ、リストアができます。Arcserve UDP のエージェントのみを導入することで、基本的なバックアップおよびリストアができます。より高度な機能（例：重複排除、遠隔地レプリケーションなど）を利用される場合には、Arcserve UDP の管理コンソールと復旧ポイント サーバを導入してください。

Linux 環境の場合、Arcserve UDP Agent for Linux を導入したサーバが最低 1 台必要となります。他のバックアップ対象の Linux サーバには Arcserve UDP エージェントを個別に導入する必要はありません。

[Top へ戻る](#)



**Q9. Arcserve UDP Linux バックアップサーバは Windows 上の管理コンソールで管理できますか？**

はい、管理できます。

Arcserve UDP の単一管理コンソールから Windows や Linux、物理環境や仮想環境、クラウド環境といった混在環境を統合管理できます。

[Top へ戻る](#)

**Q10. UDP Agent for Linux のバックアップ先に復旧ポイント サーバを使用できますか？**

はい、使用できます。

復旧ポイント サーバをご利用いただくことで、バックアップの継続増分運用ができます。さらに重複排除や復旧ポイントの転送など、より高機能のバックアップを運用できます。復旧ポイント サーバを利用するには Arcserve UDP コンソールも別に必要となり、それぞれ導入先に Windows Server 2008 R2 以降の Windows サーバが必要になります。(同じサーバに導入することもできます)

[Top へ戻る](#)

**Q11. Arcserve UDP v6 からのアップグレードはできますか？また、設定は引き継がれますか？**

いいえ。Arcserve UDP 8.x では、Arcserve UDP v6.5 Update 4、および、Arcserve UDP 7.0 Update 2、Update 1、初期リリース からのアップグレードがサポートされています。

アップグレードは、ノード、プラン等の基本設定も含め引き継ぎますが、増分バックアップ運用を行っている環境では、アップグレード後、最初のバックアップは自動的に検証バックアップに切り替わります。(重複排除の場合には、フルバックアップに切り替わります) その後は元の設定と同じく、継続増分の運用になります。

Arcserve UDP の他の以前のバージョンについては、まず上記のバージョン のいずれかにアップグレードします。その後、Arcserve UDP 8.x にアップグレードできます。

初回インストールが Arcserve UDP v6.0 以前で、Arcserve UDP 7.0 Update2 以降にアップグレードする際に、製品同梱のデータベースを利用している場合は、適用前に Microsoft SQL Server 2014 Express SP2 以降へのアップデートが必要となります。

[Top へ戻る](#)

**Q12. Arcserve UDP のプランを新規の環境に移行できますか？**

はい、Arcserve UDP v6.5 Update 2 より同一バージョン間での移行をサポートします。

コマンド (ConsoleMigration.exe) により、Arcserve UDP コンソール環境そのものを新規の環境に移行できます。

詳細は[コチラ](#)をご覧ください。

[Top へ戻る](#)

**Q13. バックアップ プロキシとは何ですか？**

仮想ホストから仮想マシンの情報を受け取り、バックアップおよびリストア データの受け渡し処理を行うサーバです。

バックアップ プロキシの構築は、プロキシとして設定するサーバ (物理もしくは仮想マシン) に Arcserve UDP

Windows エージェントを導入するだけの簡単設定になります。

[Top へ戻る](#)





**Q14. バックアップできるボリュームサイズに制限はありますか？**

はい。Windows では 1 ボリューム 64TB までバックアップ可能です。64TB 以上のボリュームをバックアップする場合は、ボリュームを分割してください。Linux 環境では制限はありません。

[Top へ戻る](#)

**Q15. CIFS 共有のバックアップはできますか？**

はい、できます。Arcserve UDP v6.5 から CIFS 共有フォルダの UNC パス (¥¥ホスト名¥共有名) を指定することでファイル単位の継続増分バックアップができるようになりました。これにより、エージェントをインストールできない NAS やストレージ、USB 接続などの外付け (リムーバブル) ディスクのデータもバックアップできます。さらに Arcserve UDP v6.5 Update 2 より重複排除の利用が拡張され、バックアップ サイズを抑えた運用をサポートします。

[Top へ戻る](#)

**Q16. Hyper-V 環境のエージェントレス バックアップにはどんな方法がありますか？**

Hyper-V 環境のバックアップには二種類のエージェントレス バックアップの方法があります。

- ・ 仮想マシンのエージェントレス バックアップ (プロキシ経由)

一般的にエージェントレス バックアップといえば、この方法を指します。バックアップの設定は Arcserve UDP コンソールから行い、各仮想マシンをエージェントレスでバックアップします。この方法では、仮想マシン単位の復旧のほか、ファイル単位でもリストアできます。Hyper-V ホストのバックアップには、ホスト サーバにエージェントを導入して行います。

- ・ Hyper-V ホスト丸ごとのバックアップ

Hyper-V ホストにエージェントを導入し、Hyper-V ホストを丸ごとバックアップします。この方法は、Hyper-V ホスト上の仮想マシンも一括でバックアップしますが、復旧の単位は仮想マシン単位になります。ファイル単位のリストアは行えません。バックアップの設定は Arcserve UDP コンソール、または Arcserve UDP エージェントの GUI から行います。

エージェントレス バックアップの他、各仮想マシンにエージェントを導入して物理サーバと同じようにバックアップする方法もサポートしています。

[Top へ戻る](#)

**Q17. VMware バックアップ プロキシ サーバとして、Windows Server 2019 環境をサポートしますか？**

はい。Arcserve UDP v6.5 Update1 よりサポートします。

VDDK 6.5.1 以降が必要になるため、VDDK 6.5.2 を組み込んでいる UDP v6.5 Update 2 を適用してください。(UDP v6.5 Update 1 をご利用の場合には、ヴイエムウェア株式会社より提供される VDDK 6.5.1 が必要になります。マニュアル記載の[適用方法](#)をご覧ください。)

また、Arcserve UDP のバージョンにより、対応する VDDK が異なるため、詳細は [Arcserve UDP と VMware VDDK の組み合わせについて](#)を確認し、必要に応じてパッチを適用してください。

[Top へ戻る](#)

**Q18. Arcserve UDP で行う通信にセキュアなプロトコルを使えますか？**

はい。SSL を使った通信が使用可能です。

[Top へ戻る](#)



**Q19. Nutanix のハイパーコンバインドインフラで vSphere 環境を構築している場合、仮想マシンのバックアップをサポートしますか？**

はい、サポートします。

Arcserve UDP からみると、Nutanix のハイパーコンバインドインフラは透過的な環境であるため、エージェントレス方式も、また各ゲストにバックアップ モジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式もサポートします。

[Top へ戻る](#)

**Q20. Nutanix のハイパーコンバインドインフラで Hyper-V 環境を構築している場合、仮想マシンのバックアップをサポートしますか？**

はい、サポートします。

各ゲストにバックアップ モジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式をサポートします。

[Top へ戻る](#)

**Q21. Nutanix のハイパーコンバインドインフラで AHV (Acropolis Hypervisor) 環境を構築している場合、仮想マシンのバックアップをサポートしますか？**

はい、サポートします。

各ゲストにバックアップモジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式と、Arcserve UDP 7.0 より エージェントレスバックアップもサポートします。

[Top へ戻る](#)

**Q22. Nutanix Files のバックアップはサポートしますか？**

はい、サポートします。

Arcserve UDP 8.0 より、Nutanix Files のバックアップに対応しました。UNC/NFS を指定してバックアップできます。また、Nutanix Files のスナップショットと連携して、増分バックアップを高速に行えます。Nutanix Files のバックアップを行う場合、「Advanced Edition for Nutanix」をご利用ください。

[Top へ戻る](#)

**Q23. Citrix Xen Server を仮想スタンバイ対象の仮想環境としてサポートしていますか？**

いいえ、Citrix Xen Server は、保護対象の仮想環境としてのみサポートされます。

[Top へ戻る](#)

**Q24. Arcserve UDP に付属する Arcserve Backup ではなにができますか？**

Arcserve UDP Advanced Edition に付属する Arcserve Backup で、復旧ポイント（UDP でバックアップしたデータ）をシングルドライブのテープ装置やハードディスクに二次バックアップできます。

Arcserve UDP の復旧ポイント以外をバックアップされる場合や複数ドライブのテープライブラリをご利用の場合は、Premium Edition 以上をご利用ください。

[Top へ戻る](#)



**Q25. Arcserve UDP のコンポーネントは仮想サーバやクラウド上の仮想マシンに導入できますか？**

はい、以下のすべての Arcserve UDP コンポーネントを仮想マシン上でご利用いただけます。

(Arcserve UDP コンソール、復旧ポイント サーバ、Arcserve UDP Agent for Windows、Arcserve UDP Agent for Linux)

サポート対象の仮想環境やクラウドサービスは[動作要件](#)をご参照ください。

[Top へ戻る](#)

**Q26. 仮想スタンバイとは何ですか？**

バックアップ データから仮想マシンを作成し、自動リカバリを実施する機能です。復旧済みの仮想マシンを常時準備できるため、本番サーバ障害時には仮想ゲストを起動していただければ、すぐに業務を再開できます。仮想スタンバイは、Windows マシンをサポートします。

[Top へ戻る](#)

**Q27. インスタント仮想マシン (インスタント VM) とは何ですか？**

最短時間でのリカバリを実現するため、バックアップ データを直接参照し、仮想マシンを生成する Arcserve UDP の機能です。Windows、Linux マシンをサポートします。

[Top へ戻る](#)

**Q28. 仮想スタンバイとインスタント仮想マシン (インスタント VM) の違いは何ですか？**

仮想スタンバイは、プランで事前に設定した仮想環境と仮想データを生成するためのハードディスク領域が必要です。物理的に独立しているため、スタンバイ サーバで運用を継続することができます。

インスタント仮想マシンは、本番サーバに障害があったタイミングで任意の仮想マシンを利用して起動できます。バックアップ データを参照して起動するため、仮想マシン用のハードディスクを用意する必要がありません。

仮想環境での継続運用を想定している場合は仮想スタンバイ、災害時の一時的な業務継続利用やバックアップ データの動作確認にはインスタント仮想マシンをお勧めします。

[Top へ戻る](#)

**Q29. 仮想スタンバイやインスタント仮想マシン (インスタント VM) をクラウド上に構築できますか？**

はい、AWS (Amazon Web Services) のクラウド コンピュータ (EC2) や Microsoft Azure のクラウド コンピュータ (Arcserve UDP v6.5 Update 2 より対応) に仮想スタンバイとインスタント VM を構築できます。オンプレミスで障害が発生した際には、クラウド コンピュータ上の仮想スタンバイやインスタント VM ですぐに業務を再開できます。なお、クラウド環境では Windows OS は仮想スタンバイ、Linux OS はインスタント VM と OS によって利用できる機能が分かれます。

[Top へ戻る](#)

**Q30. セキュア ブート環境のマシンをバックアップできますか？**

はい、Windows / Linux 共にセキュアブート環境に対応しています (Linux は Arcserve UDP v6.5 Update4 より対応)。

[Top へ戻る](#)



**Q31. Arcserve UDP の設定をエクスポートできますか？**

はい、Arcserve UDP 8.0 以降では Arcserve UDP Agent for Windows の設定情報を JSON ファイル形式でエクスポートできます。この設定ファイルをインポートすることも可能です。

[Top へ戻る](#)

